

2022年2月10日
日本銀行横浜支店

神奈川県金融経済概況（2022年2月）

I. 概況

神奈川県の景気は、引き続き新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響を受けながらも、基調としては持ち直している。

輸出や生産は持ち直している。設備投資は持ち直している。雇用・所得環境は弱い動きとなっている。個人消費は緩やかに持ち直しているものの、足もとではサービス消費を中心に下押し圧力が強まっている。住宅投資は足もと持ち直しの動きがみられている。公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。

金融面をみると、貸出は、前年に大幅に増加した反動から前年並みとなっているものの、高水準で推移している。預金は、引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出： 供給制約の影響を残しつつも、持ち直している。

- ・ 21/12月の横浜港の輸出額は、中国向け半導体等製造装置、金属加工機械などが増加しているほか、自動車関連では供給制約の影響を残しつつも持ち直していることから、前年を上回った。

(2) 生産： 供給制約の影響を残しつつも、持ち直している。

- ・ 素材関連は、回復している。
- ・ 輸送機械は、供給制約の影響を残しつつも、持ち直している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、増加している。
- ・ 電気機械は、供給制約の影響から、足もと弱い動きとなっている。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 21/12月短観における設備投資の21年度計画は、半導体の需要増に対応した増投資などから前年度を上回る計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 新型コロナウイルス感染症の影響から、弱い動きとなっている。

- ・ 21/12月の有効求人倍率（就業地別）は、前月から低下した。21/11月の名目賃金は前年を上回った一方、常用雇用者数は前年を下回った。

(5) 個人消費： 緩やかに持ち直しているものの、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響から、サービス消費を中心に下押し圧力が強まっている。

- ・ 百貨店販売額は、持ち直しつつあるが、足もとでは弱めの動きがみられている。
- ・ スーパー販売額は、弱めの動きがみられている。
- ・ ドラッグストア販売額は、底堅く推移している。
- ・ 家電販売額は、持ち直しの動きが一服している。
- ・ 新車登録台数は、供給制約がみられており、持ち直しのペースが鈍化している。
- ・ 宿泊施設の客室稼働率は、新型コロナウイルス感染症の影響から、足もと弱い動きとなっている。

(6) 住宅投資： 足もと持ち直しの動きがみられている。

- ・ 21/12月の新設住宅着工戸数は、前年を上回った。
- ・ 21/10-12月の新設住宅着工戸数は、貸家、分譲戸建て、持家、分譲マンションがいずれも増加したことから、全体でも前年を上回った。

(7) 公共投資： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 21/12月の公共工事請負額は、前年を下回った。
- ・ 21/10-12月の公共工事請負額は、市町村、独立行政法人等、国、県などがいずれも減少したことから、全体でも前年を下回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 前年に大幅に増加した反動から前年並みとなっているものの、高水準で推移している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、高水準で推移している。個人向けは住宅ローンを中心に増加している。法人向けは運転資金を中心に高水準で推移している（貸出金末残前年比：21/11月+0.2%→12月+0.1%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある（月末貸出約定平均金利：21/11月1.001%→12月0.994%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：21/11月+3.9%→12月+3.6%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。